

八丈島民の海外移住

ブラジルの前はアメリカへ



106年前の明治時代  
1909年の在米同郷人

向かって左から 【後列】浅沼米二郎、本木禎一、菊池國作、菊池松助、菊池権作、浅沼重吉、菊池房太郎 【中列】菊池咲二郎、牧野惣次郎、菊池武、鳥居藤三郎、浅沼鶴平 【前列】菊池伊須造、齋藤三三、浅沼留三郎

本紙新年号で、約100年前、ブラジルに移住した八丈島の人たちの住居や暮らしがわかる写真特集しました。ご親戚の方などで、ブラジル移住者の写真や名簿が手元にないかを呼びかけたところ、読者から寄せられたのはブラジル移住より少し前の明治時代に米国へ渡った人たちの情報でした。

上の写真はそのひとつ。1909(明治42)年7月5日に米国で撮影された八丈島出身の青年たちの姿です。青年たちの名前と、「同郷人 他山ノ華」という説明が記されており、八丈島の同郷人のコミュニティが存在していたことがわかりました。

所蔵しているのは三根、焼酎製造業、榎野正徳さん(87)。写真中列左から2人目の牧野惣次郎さんは正徳さんの伯父にあたります。伯父の息子さんは戦後、朝日新聞社のカメラマンとして活躍したそうです。三根、漁業、浅沼敏男さん(66)の曾祖父にあたる前列右端の浅沼留三郎さんからは、島の家族に2万円の送金があり、それで船(大黒丸)を造ったそうです。同船は戦争で疎開時に売却されました。

同じ写真を、川崎市在住の千葉陽子さん(80)も所蔵しています。中列中央に写っている菊池武さんは、陽子さんの祖母の弟です。ここに写っている人たちが以外にも、多くの島の人々が米国へ移住しており、その写真も残っています。二世の女性が戦後、ロスでのミスコンテストで、最終選考に絞り込まれたという記録も発掘されました。それぞれの人にたくさん逸話が残っていることでしょう。

今号では、撮影年がわかるこの一枚と、米国に移住した島の人々が、日米の開戦にどんな思いを抱いていたかを知ることができると紹介いたします。

日米開戦後、日系人は強制収容 1949年、二世フェスが復活

サンフランシスコやシアトルなどの北米へ多数の日本人が渡航したのは20世紀初めでした。サンフランシスコ大地震の翌1907年、ロサンゼルス「リトル東京」の人口は急増し、3万人を超えました。こうした日本人移民の急激な増加や、日露戦争終結後の政治的あつれきなどで排日運動が起こり、1924年、米国は日本人移民の入国を禁止します。

韓国(1910年に併合)やマイクロネシア(1914年に委託統治領)には、数十万人もの日本人が流入します。これらの植民地での移住は日本の軍事力に守られ、支配階級の一員となりましたが、アメリカ、ブラジルなどの北米や南米に渡った移民たちは、少数民族として差別や排斥の対象になりました。

1932年の満州国建国後は、国家が主導権を握って満州地域への移住を推進しましたが、北米、南米への移住者は、自分で手続きを行って渡航するか、民営の移民会社が手数料をとり、移民の募集から渡航手続きまで行るのが普通でした。

1934年、日系アメリカ人の若者たちが「二世ウィークフェスティバル」を開催します。が、日米開戦の翌1942年、西海岸に住む全日系アメリカ人が収容所に強制入所させられます。1941年まで続いたこのフェスティバルは途絶え、リトル東京に日系人の姿は消え、ゴーストタウン化します。

1945年、第二次世界大戦の終結に伴い、強制連行された11万2千人のうち、2万5千人がリトル東京やその周辺地区に戻りました。そして、1949年、「二世ウィークフェスティバル」が7年のブランクを経て復活します。

右の写真は、同フェスを特集した雑誌の1ページです。

Li'l Tokyo looks ahead



The ghost town which was Li'l Tokyo after the Japanese Americans had been evacuated in 1942, overnight became a thriving Bronzville, housing a vast army of transients from the South who had come west to work in the giant defense factories. Today, nearly five years since the return of the first Japanese Americans to the west coast, the picture has been altered again. The moved-outers have moved back in again. And now, even more brightly-lit and chrome-fronted than in its greatest hey-day, Li'l Tokyo has again become the focal point of a growing Southland Japanese American community whose resettlement in the metropolitan area is keeping pace with the spectacular growth of the sprawling city itself. These past five years of the natives' return have been years of frantic re-adjustment. But the early days of often

HIYAKE GROCERY FOR AMERICAN & JAPANESE FOOD 日焼商店 日本食料 到着種々 128½ N. SAN PEDRO ST. MA 98618

MARUYA CONFECTIONERY まるや菓子司 342½ EAST FIRST STREET MADISON 6-0746

White in Town Visit CARL KONDO'S TYPEWRITER SHOP 109 NORTH SAN PEDRO ST. MADISON 9-2782

MAGIC RADIO CO.



二世の消息 菊池郷子さん雑誌に

明治時代のアメリカへの移住者の二世、マリーレット菊池さん(日本名は郷子さん)が、1949年に開かれた「二世ウィークフェスティバル」のミスに推薦され、最終選考に残ったことが、当時発行された雑誌で紹介されました。郷子さんは、上の集合写真の中列中央、菊池武さんの三女。親戚の話によると、郷子さんは33年前、「父の故郷を見たい」と、妹とふたりで八丈島を訪れたそうです。